

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1.理念に基づく運営</b>				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	地域と結びついた生活環境を大切に、笑顔とぬくもりのある穏やかな毎日を。 利用者のそれまでの生活を理解し、個性を尊重し、安心して尊厳のある生活ができるよう支援することを目的とします。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	それぞれの名札の裏に、理念や目標を入れ毎朝朝礼時に理念を 唱和する等しながら共有を図っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居希望日や入居日、家族や入居者に理念や目標を説明し見やすい所、玄関、相談室、事務室等に理念、目標を掲げている。		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事に入居者と一緒に参加し、踊ったり食事をしながらお話をしている。ご近所の方やお友達に来ていただき、スタッフも一緒にお話をし、お付き合いをしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を基盤とし、地域の行事に参加し、スタッフも踊りや 手品等出し物に入居者も楽しみ、地元の方々と顔見知りになり交流も増えている。		地域の広報誌を頂き行事参加やボランティア活動を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域行事に参加し、ボランティア等を行っている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価や年2回の自己評価で話し合い、また個人面接等をして、評価を生かして改善に取り組んでいる。		全体清掃を増やし、住み良い環境を作っている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事に参加し、地域とのふれあいが増えてきて地域の情報が得られサービスに還元している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新の提出時や聞き取り等がある時はその毎に介護保険課(市役所)に行った!来たりしてもらっている。 市の介護保険課研修に参加している		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時、入居後市のパンフレット等も参考にしながらわかりやすく説明している。相談があった場合その毎対応している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の介護保険課の研修やその他研修に参加し、又テレビや新聞等の報道を見てその都度話し合い、入居者同士のトラブル等がないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明に記載してあり入居時に説明し、又1か月に最低1回は支払いに来ていただき、話し合いし、電話でも説明して理解を得ている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者からの意見があった場合、管理者やスタッフが話を聞き、話し合いをして家族等にも相談し、主治医、運営者等に相談している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、支払時又は電話やお便りでご個々に合せて報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用契約書にて説明している。 何時でも相談に応じ、面会時家族から意見や希望を聞いて実行している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営について困難な事態が生じた場合、意見を出し合い生かしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望は個々に応じてスタッフが対応し必要に応じて勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職は3ヶ月前に申し出るように入職時説明し、補充を心掛けグループホームの吉番館、式番館の異動も定期的に行い入居者の馴染みの支援をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>面接においては仕事内容の説明、職場見学等を行い年齢性別に関係なく本人の意思を優先している。</p> <p>ボランティアなどの社会参加は優先しメンバーも協力している。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入職時、理念、目標を説明し、人権尊重の意識づけをし個人情報への守秘義務を説明している。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護支援専門員、介護福祉士、認知症実務者研修等希望者は研修など受ける機会を与え、情報があれば提供している。市の介護保険研修、併設病院研修等にも参加している。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の介護保険研修会やグループホームの管理者会合、夏祭り等の行事に参加し交流を深めている。</p>	<p>他グループホームに訪問し、交流を深めている。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフ間で食事会等行っている。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>年2回個人目標を提出してもらい半年後自己評価、面接を行い人事考課をし賞与、給料に反映している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>毎朝リーダーのバイタルチェック時、担当者、管理者も毎日声かけしゆっくり話を聞き共感し、主治医、家族にも相談している。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時、面会時家族の話をよく聞き意見や希望を踏まえて入居者が1日でも早くなじんで頂く様にほかの入居者やスタッフと一緒になじみの関係を作っている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時解決すべき課題をあげ入居者の状態に応じた他のサービス利用を含めサービスに対応している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>レクリエーション等を通して馴染みの関係ができるように雰囲気作りをスタッフと共に散歩や食事等を繰り返し1週間様子を見て担当者話し合いスタッフの意見を聞き計画を立てている。又家族の意見も取り入れている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者とのレクリエーションやコミュニケーション等で生活歴を伺い趣味などを通して関係を築いている。</p>	<p>全員で食事をしている。</p>

グループホーム 笑顔

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	第2の家族としてゆっくり ゆったり過ごして頂く様にスタッフと共に毎月作品を作り部屋等に飾り楽しんで頂き、居室の仏様にお茶や御飯、おやつ等を上げ一緒にお参り 昔の話を聞いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	1ヶ月に1回支払いに来ていただき、運動会や誕生会などのレク行事に呼びかけし、お彼岸や誕生日、法事等外出や外泊が多いが個人差がある。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	地域や家族の方を通じて面会や外出を楽しんであり 電話や手紙等でも交流され馴染みの関係が継続している。		交友関係や、地域の催し等できるだけ参加していただき交流に努めている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	毎日、食事、おやつ、体操、レクレーション、散歩等全員声かけてスタッフが中に入り支え合えるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や施設へ移動の場合は面会や家族との連絡を取り合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族や本人の希望など受け持や管理者等を通して全員で話し合いし意向に沿うように努めている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方を通して、入居者や御家族、お友達から話を聞き、サービス利用にいかしている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>管理者、リーダー、夜勤者は申し送りを受け巡回し、個人個人を把握し心身状態にあったケアに努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議を定期的に持ちサービス内容について話し合い計画を作成している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化が生じた場合は話し合いを持ち入居者にあつた計画に沿って対応し家族にも面会や電話等で話し合い計画を作成している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に、気づきや工夫を記入し、共有し見直しに活かしている。		個別のリハビリ表を作成し実践。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々に応じて、他科受診や美容院、買い物等スタッフが同伴して要望に応じている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議等を通して地域の区長、民生委員、老人会会長の方に協力して頂いている。警察や消防署にも協力して頂き図書館、文化会館等も利用している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	紙おむつの給付サービス利用する為の支援をしている。		他グループホームの演奏会、夏祭り参加。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	介護用品給付サービス利用申請書を提出して地域包括支援センターと協力し紙おむつ給付サービスを受けている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に併設病院からの往診を受け、家族や本人、主治医、管理者が話し合い、適切な医療を受けられるよう支援している。		



グループホーム 笑顔

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設病院の為専門医が入居時に家族に聞き取り、検査等で詳しく説明され入居後も定期的往診を受けている。家族はいつでも相談できている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者、看護師2名が日常の管理をし併設病院の外来と連絡を取り合い何時でも医療が受けられる。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院が併設の為マニュアルに沿って動き、外来や病棟と連携を取っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病院併設の為入居時に説明し担当医からも本人や家族にその毎説明、話し合いしながら方針を共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の持病が悪化、入院治療の必要性が生じた場合、外来、病棟との連携がスムーズに出来ている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先との連携を取り、介護添え書きをそえて情報交換を行っている。本人、家族、スタッフ、医師、病棟スタッフ、PSW等と話し合いを持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>接遇を心がけ、個々の言葉使いに注意し、個人の名前のある物は手渡し、個人情報が必要な物はシュレッダー処理している。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ゆったりと落ち着いた生活が出来る様個々の環境の中で、個々のレベルに合わせコミュニケーションを取りながら納得して暮せる様支援している。</p>	<p>希望に応じて買い物や音楽鑑賞等に出掛けている。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望と個性に応じた日常生活を送っている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望により行きつけのお店を利用している。起床時、入浴時身だしなみを行っている。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好みに合った食事や、器等工夫している。入居者と一緒に準備や片付けを行い、食事と一緒に和やかな雰囲気会で会話も弾み、楽しい食事ができている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居者に合わせた好みの物を楽しめる様に支援している。</p>	

グループホーム 笑顔

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人に合わせた排泄時間に声掛けし誘導を行い支援している。		夜間おむつ使用の方に日中布パンツを使用してトイレ誘導を行っている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人に合わせた曜日や時間で入浴支援している。希望があれば希望に沿うようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の温度調節や個人に合った寝具を使用し、週1回リネン交換をしている。日中、レクリエーションや散歩等で気分転換を図っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、お手玉、ボール遊び、貼り絵、手芸等又個人に合わせたレクリエーションを行い、季節ごとの花見、外食等で楽しみ気晴らしをしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援している。事前に家族に了解をとって入居者自身持たせる事もある。その他の入居者についても家族より預かり、買い物、外食時に渡して自分で支払い出来る様援助している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日声掛け出来るだけ戸外を散歩し花や木、野菜等で季節感を味わい気分転換を図っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	お墓参りや自宅、実家、友達の所等一人一人に合わせて家族と相談し、出来るだけ家族と出掛けられる様、又スタッフが付き添って買い物等出かけられる様支援している。		

グループホーム 笑顔

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話、公衆電話、ホームの電話等でどの場所からでも利用できるよう支援している。個人個人自由に手紙のやり取りができている。		お正月は全員年賀状を出している。毎月受け持ち担当者から入居者の近況をお便りしている。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は自由で、ホールや居室でゆっくり話せるよう準備し、時間によっては昼食やおやつと一緒に食べて頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通して身体拘束に対する認識を深めるようにしている。状況に応じて家族に相談している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、自由に出入りができるようになっている。入居者に対して見守り、点呼している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して1時間毎の巡回をして見守り、点呼し夜間ドアの音にて確認し見守りしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に応じて洗剤や石ケンや消毒液等一部位置をかえたり保管している。入居者に応じて個人の手拭きタオルも預かり必要時渡している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者に応じた計画の中で1つ1つ話し合いし又研修、勉強会等してそれぞれのマニュアルにそって事故防止に取り組んでいる。		下肢 筋力維持のためのリハビリ強化をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急マニュアル。救急時の連絡等、訓練を定期的に行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設病院、地域と連携、避難訓練を定期的に行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時説明しその後必要に応じて家族と連絡を取り、併設病院の担当医と管理者と一緒に話し合いをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、体調の管理し申し送り時に情報を共有し、往診等してもらい解決している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に薬じょうがいつでも見られるようにし1人1人の内容、副作用をそのつど話している。服薬確認は3回行っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、食事摂取のチェック、体操や散歩。おやつ、食事の工夫し各個人に応じて、緩下剤を使用している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけし本人が出来る場合は自分で、困難な方は1人1人の状況に合わせて職員が介助し、入れ歯のチェック、歯ブラシの消毒等行っている。		必要に応じて歯科受診にて治療を行っている。口腔ケアの研修に参加している。

グループホーム 笑顔

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常生活記録を管理者、リーダー夜勤者は毎日チェックし、状況に応じてお薬やゼリーやカルピス、ポカリの飲み物、おかゆ、梅干し等体調に応じ支援している。		1日の水分量をチェックし、不足しがちな方には必要分摂取していただくようになっている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルにそって実施し、日頃は流水の手洗い、消毒液を使用している。インフルエンザの予防注射も受けてもらっている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は冷凍冷蔵保存し、準備は2時間前から開始し、果物以外は熱を通して使用する。まな板はハイターや使用後熱湯とかかけ、生ゴミはそのつど外に出している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの周りの柵に鉢植えの花を掛けたり、玄関前にも鉢植えの花や木を置き、玄関前にリースとかかかけたり玄関に四季の花を生けたりしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周りや柵に鉢植えの花をおき、玄関前にも手づくりのリースをかけホール内にも毎月作品をはり、四季の花をテーブルや玄関に生けて生活感、季節感を採り入れている。		毎月入居者と一緒に行事や植物、動物等生活感、季節感を採り入れた作品を作っている。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広いので食卓の他にソファや畳がおかれ、それぞれが思い思いの場所で過ごせるようになっている。		

グループホーム 笑顔

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスはホームで準備しているが本人が使い慣れたテーブルや椅子や仏壇等おかれ、又レクリエーションで作った作品や写真等それぞれ個性が出た部屋になっている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝掃除時換気し、その後も適宜行い臭いやよどみはない。北側、南側、個人に応じて温度調節を行っている。温度計もリビング、居室、廊下等に備えている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、段差はない。廊下も幅広く車椅子がスムーズに通れる。手すり先要所所に十分設置している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	レクリエーション時1人1人の趣味を生かし、スタッフと一緒に個々に応じて対応している。		個人のリハビリ表を製作し実施している。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	天気がいい日はテラスでラジオ体操や歌などレクリエーションをしたり、中庭で野菜や花の成長を楽しみ収穫等している。		アウトドア用椅子、テーブルを購入し中庭にて食事会やおやつやレクリエーション等の機会が増えた。

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	



グループホーム 笑顔

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
100	職員は、生き活きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の 2/3 くらいが
			職員の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の 2/3 くらいが
			家族等の 1/3 くらいが
			ほとんどできていない

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・一緒に食事をゆったりと会話をしながらおいしく食べています。・広いテラスを利用。気候に応じて食事やレクリエーション等行っています。・広い庭が有る為入居者が朝早くから出られ思い思いに過ごされる。